

広 陵



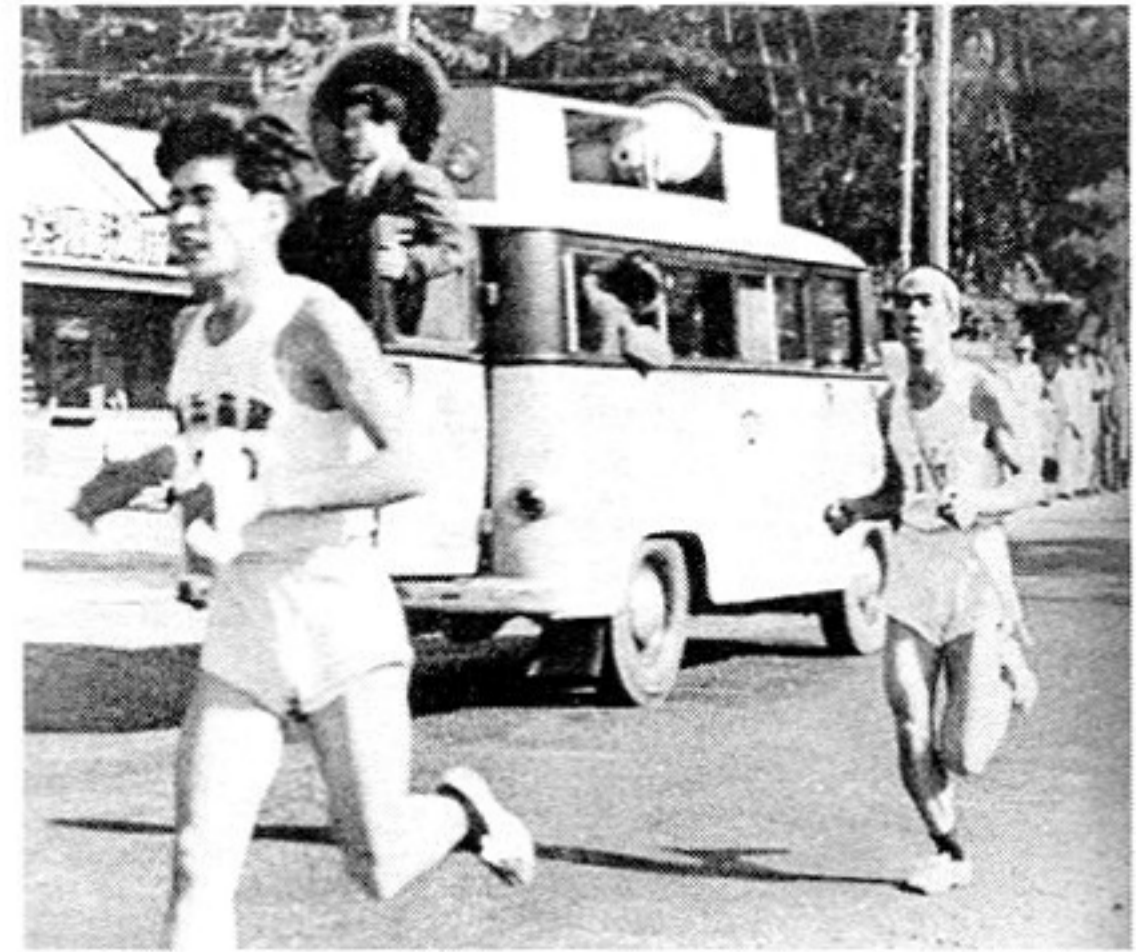
第36号 2007.7.20

神奈川県立秦野高等学校同窓会会報

《思い出のシリーズ》 No.36



社会見学
静岡
車中で
昭和37年



県下高校駅伝大会 昭和31年



第61回選抜野球大会
吹奏楽で応援 昭和54年



テーブルマナー
箱根小涌園 昭和42年

同窓会会報第36号目次

表紙
題字 宮本 信義 (中5回)
スケッチ「学校への道」 松田方面
横溝 英一 (中20回)

総会のご案内……………1

平成18年度総会報告 平塚支部……………1

平成18年度事業報告・決算報告……………2

平成19年度事業計画案・予算案……………3

挨拶 同窓会 会長・柳川一朗……………4

校長・岩本満敏

創立80周年記念行事……………5

80周年醸金結果……………6

第一回青春かながわ校歌祭 80周年記念品紹介……………7

支部だより……………8

広畑が丘 空晴れて 秦中・秦高に想う……………10

秦中・秦高在職中の思い出……………12

全国大会等の報告……………13

同期会だより……………14

物故者……………15

2006年度母校進学カルテ……………16

会員名簿・叙勲・春の異動・編集後記……………18

総会へのお誘い

同窓会 会長 柳川一朗
 平成19年度総会は、小田原市民会館で、南足柄支部の支援を受け小田原支部の皆様で設営していただきました。ぜひ、会員各位のご参加をお待ちしております。

平成19年度 秦野高等学校同窓会

～ 総会のご案内～

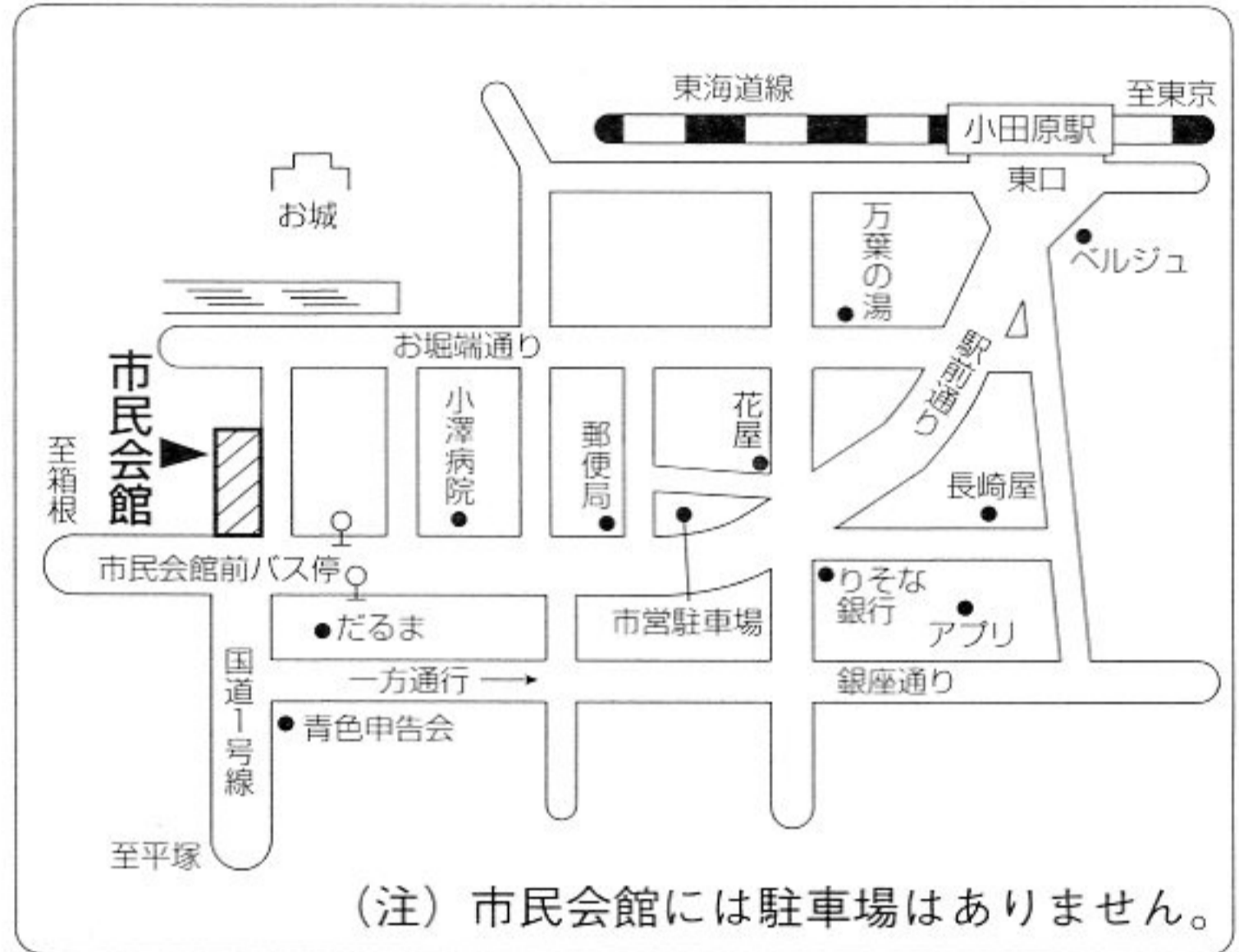
日時 8月25日(土) 午前10時30分～
 会場 小田原市民会館 6階
 小田原市本町1-5-12
 TEL (0465) 22-7146

総会日程

受付 午前10時～
 総会 午前10時30分
 ■18年度事業および決算承認
 ■19年度事業計画および予算承認
 ■会計担当理事の承認、その他

懇親会

午後12時30分～2時30分
 会費 5,000円(当日納入)
 会食、懇談
 ■アトラクション



会場へのご案内

- *小田原駅東口から徒歩10分
- *小田原駅東口バス 箱根登山「市民会館前」下車



平成18年度

総会報告

平塚支部

野川義雄(中19回)

平成18年度同窓会が、8月26日(土)10時30分から平塚のホテル・サンガーデン芙蓉の間を会場として開催された。柳川一朗同窓会長の母校の歴史を讃える母校愛に溢れた挨拶、校長代理として出席された能条教頭の秦野高校の今日的課題の一端の披瀝などがあり、総会次第に添い議事も懇親会も整然と、しかも和やかな雰囲気の内に行進することができた。総会受け入れ地区の準備は平成18年5月13日、7月15日、8月10日のタウンニュースへの総会開催記事掲載、8月20日最終準備会などを重ね、支部役員全員の役割分担の協力で、開催地区の責を終えることができた。



80年の周年行事を計画し、特に秦野高校校歌作詞者、葛原(あしはら)生誕120年の歴史など思い重ねながら母校校歌を大合唱し、荒井氏寄贈の20年ものワインの抽選やお土産など参加者に配り閉会した。

平成18年度決算報告

◎歳入の部

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日

項目	18年度予算額	18年度決算額	増減	提要
前期より繰越	5,692,751	5,692,751	0	
終身会費	4,000,000	3,830,000	△170,000	
80周年醸金	300,000	1,916,530	1,616,530	
受取利息	5,000	1,599	△3,401	預金利息
雑収入	0	23,000	23,000	出資金戻り
繰入金	7,000,000	7,000,000	0	
合計	16,997,751	18,463,880	1,466,129	

◎歳出の部

項目	18年度予算額	18年度決算額	増減	提要
会議費	410,000	318,810	△91,190	
総会費	250,000	250,000	0	総会諸経費
役員会議費	160,000	68,810	△91,190	役員会議、幹事会諸費
事業費	14,620,000	11,900,392	△2,719,608	
支部育成費	270,000	270,000	0	
同期会育成費	100,000	60,000	△40,000	同期会祝金
在校生活動振興費	1,200,000	1,200,000	0	
吹奏楽部助成費	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	48,750	△51,250	祝金、弔意費
会報発行費	2,850,000	2,598,756	△251,244	広陵発行諸費
80周年記念事業費	10,000,000	7,622,886	△2,377,114	
事務費	210,000	870,121	660,121	
事務局費	150,000	825,120	675,120	学校援助費 かながわ校歌祭参加費
通信費	30,000	26,515	△3,485	会議等通知郵送代
印刷費	30,000	18,486	△11,514	諸会議等資料コピー代
予備費	1,757,75	0	△1,757,751	
後期へ繰越	0	5,374,557	5,374,557	
合計	16,997,751	18,463,880	1,466,129	

定期預金 40,500,000円

平成18年度秦野高等学校同窓会の会計収支決算について、関係帳簿及び書類等を審査した結果、正確・公正に処理されていることを認めます。

平成19年6月11日

会計監査 清田幸宏 多田重雄

平成18年度事業報告

1 役員会議

- 5/7、7/2、10/7 80周年記念行事、かながわ校歌祭、「広陵」の内容の件、その他報告事項
H19.1/27 会計報告、醸金会員への対応、報告事項の件

2 幹事会

- 6/3 17年度事業・決算、18年度事業計画・予算の件、80周年記念行事、かながわ校歌祭他

3 総会

- 8/26 平塚サンライフガーデン 幹事；平塚支部 出席者；会員58名 学校2名 計60名 総会とアトラクション・アコーディオン演奏 大庭昌子

4 創立80周年記念行事

- 10/28 秦野市文化会館 主催；学校、PTA、同窓会三者による実行委員会 参加者；生徒、PTA会員、学校職員、同窓会員、来賓 1,200名 内容；記念式典、発表会（弦楽合奏、合唱、チアリーディング、吹奏楽）、祝賀会、資料展示コーナー、施設整備、記念誌発行

5 会報「広陵35号」発行

- 全会員に配布

6 支部育成と同期会育成

- 7支部への育成費補助 支部活動費補助
- 同期会育成 6同期会に祝金贈呈

7 在校生への活動支援

8 第1回「青春かながわ校歌祭」参加

- 10/21 県立青少年センターホール 参加同窓会 22校 本校同窓会員54名 生徒24名 職員4名 合唱曲目「校歌」「第二応援歌」 応援旗、幟旗、太鼓演出

以上のとおり報告します。

平成19年8月25日

会長 柳川一朗

会計 畑野公保

会計 榎本節子

平成19年度予算(案)

◎歳入の部

自 平成19年4月1日
至 平成20年3月31日

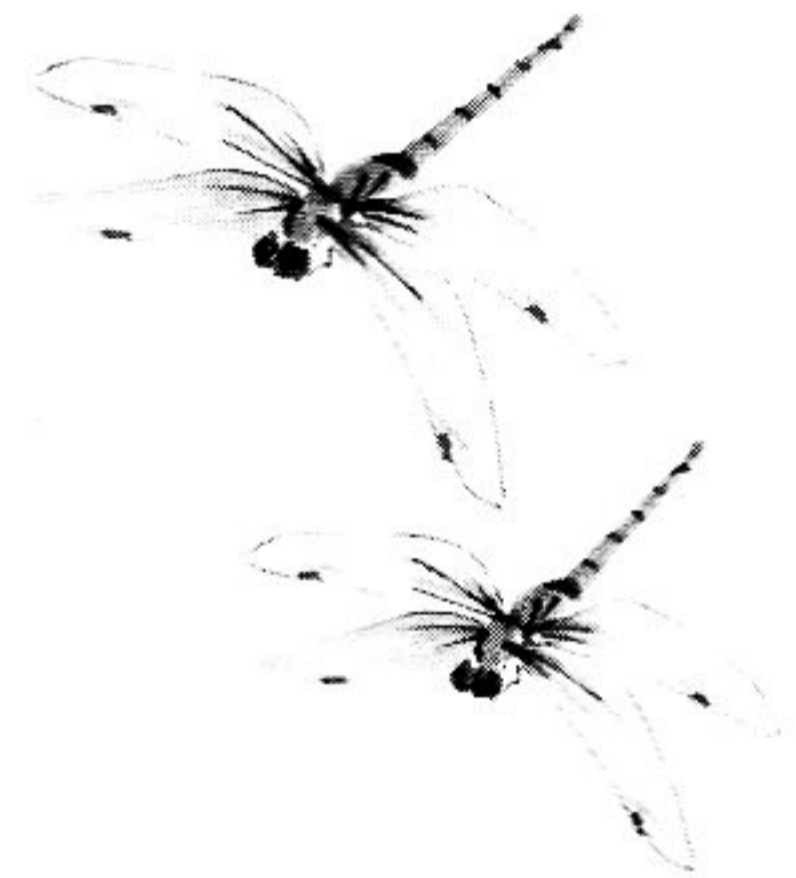
項目	19年度予算額	18年度予算額	増減	提 要
前期より繰越	5,374,557	5,692,751	△318,194	前年度繰越金
終身会費	4,000,000	4,000,000	0	
80周年醸金	0	300,000	△300,000	
受取利息	5,000	5,000	0	
繰入金	0	7,000,000	△7,000,000	
合 計	9,379,557	16,997,751	△7,618,194	

◎歳出の部

項目	19年度予算額	18年度予算額	増減	提 要
会議費	410,000	410,000	0	
総会費	250,000	250,000	0	
役員会議費	160,000	160,000	0	
事業費	4,620,000	14,620,000	△10,000,000	
支部育成費	270,000	270,000	0	
同期会育成費	100,000	100,000	0	同期会祝金
在校生活動振興費	1,200,000	1,200,000	0	
吹奏楽部助成費	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	100,000	0	
会報発行費	2,850,000	2,850,000	0	会報発行費・送料等
80周年記念事業費	0	10,000,000	△10,000,000	
事務費	210,000	210,000	0	
事務局費	150,000	150,000	0	
通信費	30,000	30,000	0	会議等通知郵送代
印刷費	30,000	30,000	0	諸会議等資料コピー代
積立金	3,000,000	0	3,000,000	
予備費	1,139,557	1,757,751	△618,194	
合 計	9,379,557	16,997,751	△7,618,194	

平成19年度事業計画(案)

- 1 総会・幹事会・役員会の開催
- 2 第2回「かながわ校歌祭」への参加
- 3 会報「広陵36号」の発行
- 4 支部育成
- 5 同期会との連携(祝金の贈呈)
- 6 在校生諸活動への支援と交流
- 7 会費の納入促進
- 8 同窓会諸運営に関する検討
- 9 近隣同窓会との交流、その他



県立秦野高等学校同窓会本部役員名簿

【会 長】	柳川一朗 (秦 野)		
【副会長】	深田源次 (東 京)	内堀昌治 (茅ヶ崎・藤沢)	松永幸夫 (平 塚)
	喜多 実 (伊勢原)	梅原福司 (秦 野)	廣澤富正 (小田原)
	鈴木 正 (南足柄)		
【支部長】	梅原福司 (秦 野)	稲木 貢 (小田原)	瀬戸洋四郎 (伊勢原)
	内堀昌治 (茅ヶ崎・藤沢)	野川義雄 (平 塚)	深田源次 (東 京)
	端山昭夫 (南足柄)		
【理 事】	大川 要 (伊勢原)	榎本圭治 (秦 野)	渋谷富治夫 (秦 野)
	畑野公保 (伊勢原)	久保寺富男 (秦 野)	青木利之 (秦 野)

挨拶— 昨年の行事から

同窓会 会長 柳川 一朗



新緑の候、同窓会員の皆様には御健勝にて御活躍の御事と慶賀申し上げます。

早いもので平成19年度の総会を小田原支部主催で8月25日(土)小田原市民会館で行うことになりました。昨年は平塚支部のお骨折りで立派に挙行できましたこと、厚くお礼申し上げます。

平成18年度は母校の草創120年、創立80周年事業が平成18年10月28日秦野市文化会館で無事立派に終了させて頂きました。同窓会の皆様にはご寄付等ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。50周年から

関与して参りました私としては、今回の行事ほど学校・PTA・同窓会が一致団結して立派にできたことを実行委員長として厚くお礼を申し上げます。又創立80周年記念誌を寄付を頂いた方にお送りしました。70周年以降10年間の目ざましい変遷を盛り込んでいます。編集委員12名のご苦勞に感謝申し上げます。

このほかに、今までなかった県立22校による卒業生、在校生が集まり母校の校歌等を「青春かながわ校歌祭」が10月21日横浜青少年センターで開催されました。本校は他校に遜色のない型で「広畑が丘空晴れて」を歌いました。藤沢地区の副会長内堀さんには、代表実行委員長として大変お骨折りを頂きました。生徒サ

ッカー部員20名位を加えた総勢六十余名の参加をえて、舞台狭しの感で盛大にできました。県会議長の中林省司氏(高15回)も熱心に参加して下さい

いました。今年も通知が来ています。最後に同窓会の運営に皆様

の絶大なるご協力をお願い致します。まして挨拶と致します。

文武両道の精神に刻む

進学校としての具体を

校長 岩本満敏



昨春秋に挙行いたしました本校『創立80周年(草創120年)の記念式典』に際しましては特段のご厚情とご支援

等さらに式典等の司会進行、記念式典では本校を代表する文化部の発表や展示等、日頃の活動の披露の場であり好評を博して終了いたすことができましたこと等、ご報告をさせていただきます。

を賜り本校を預かる校長として、改めて紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。有難うございました。また当日、本校生がご来賓や会場にお来しいただいたお客様方に対して心こめた受付、応待、案内

質実剛健を健学の精神として、「文武両道」の校風は脈々と諸先輩の皆様方から受け継がれ在校生に引き継がれております。現在の秦野高校はこうした伝統と2学期制と推薦入試をいち早く導入をし教職員が一丸となって本校の活性化に向けた努力が開花をし、

部活動の活躍は特筆されます。(関東大会へ6部参加・5/23)

さてすでに新聞報道もなされていく所ですが、本校は「発展的な学力向上重点推進校」に指定されており、授業時間の確保や土曜日補習、補填の時間の有効活用その他、本年度の入学生から「特別選択7クラス」を設置し英数を週6時間(6単位)として他クラスより1時間授業時間を多くする取組みを開始しています。さらに旧来の3学期を復活するのでなく、授業時間の確保等から新たな3学期制を進め、テスト形態も工夫する5月・10月テストとし、何よりも「確かな学力」育成のための授業改善や授業力を高めていく、換言すれば生徒一人ひとりの進路達成や実現に向けた進学校としての努力を進めてまいる所存です。

創立80周年記念行事

金目村（現平塚市）外26か町村学校組合立奈珂中学校を現在地に選定、大正15年10月29日を開校記念日と決定してから、今年（平成18年）で80周年である。したがってはじめから県立としてでなく、地域の要望によってできた学校であることが特色である。

さて今回は、学校・PTA・同窓会が一体となって、実行委員会を組織し活動した。同窓会としては、早速醸金活動を開始、688名・金額4283、000円となった。多少でも学校に貢献できたとはいえ、十分とはいえない。今後の課題である。

10月28日（土）初めて外部施設を借用して、秦野文化会館で行った。

●記念式典（13時10分～13時55分）
生徒が司会を担当し、来賓

として、引地孝一県教育長、中村省司県議会議長（高15回）、古谷義幸市長（高18回）等が見えられた。生徒会長福岡雅也君の挨拶に早野前校長絶賛する。出席者約1300名。

●発表会（14時10分～16時10分）

生徒司会で開演。弦楽合奏、合唱、チアリーダーディング、吹奏楽演奏と続き、最後に玉置先生指導で生徒公募の作詞、

「Yes, I Believe You」を生徒全員で合唱した。その感激はまだ忘れられない。

●展示会（11時～16時10分）

学校・PTAと同窓会会場の2会場で、生徒・保護者の作品・同窓会関係資料が展示された。

●祝賀会（17時～19時）

場を秦野商工会議所に移し開催。来賓・教職員・PTA・同窓会四者一堂に会しての交歓。意義ある会となった。参加者約120名。

厳かに、華やかに挙行。



式典



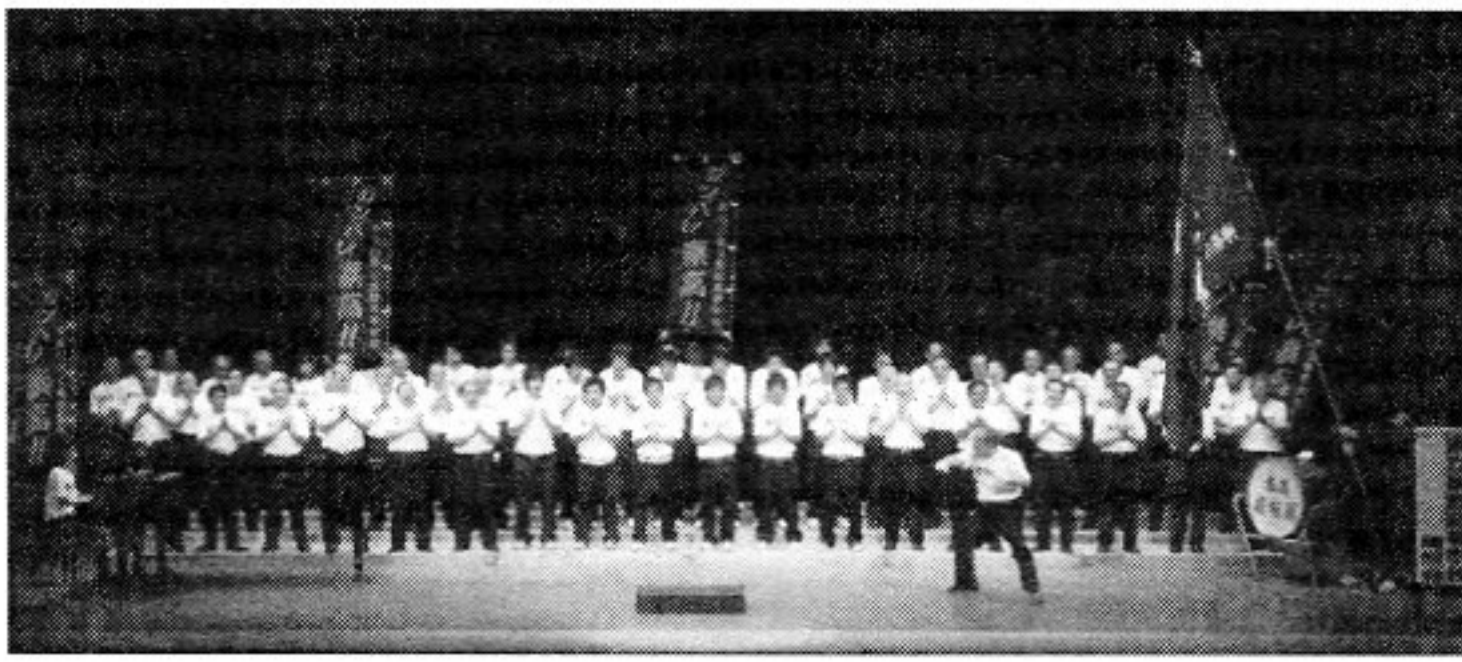
記念歌合唱・演奏



チアリーダーディング

第一回 青春かながわ校歌祭

♪ 内堀 昌治 (高3回)



昨年10月21日、青春にかけ
る思いを高校の校歌で歌い継
ぐ初めての「青春かながわ校
歌祭」が、県立青少年センタ
ーで開催。県内22校の在校生、
卒業生が集まり現在の校歌だ
けでなく旧制中学時代の校歌

や男女別時代の校歌も披露。
校歌祭は学校単位と同窓会の
縦の繋がりはあるが、学校を
越えての交流の場がない事か
ら県議員等の各校同窓会へ
の呼びかけから始まり、各校
とも30人から100人がステ
ージに立った。太鼓やブラバ
ン、ピアノなどの伴奏で校旗
やのぼりを用意した学校や揃
いのTシャツの我が校とそれ
ぞれ工夫して独自色を出して
参加。校歌は在校生にとって
も入学式や卒業式などの行事
に限られ、卒業生は同窓会を
開催した際や母校の大会出場
時の応援ぐらいで殆どないの
が現状。この催しは、世代を
越えて、歌い継がれる校歌の
持つメロディや歌詞の美しさ
に代表される伝統や文化を、
次代を担う青少年に伝承する

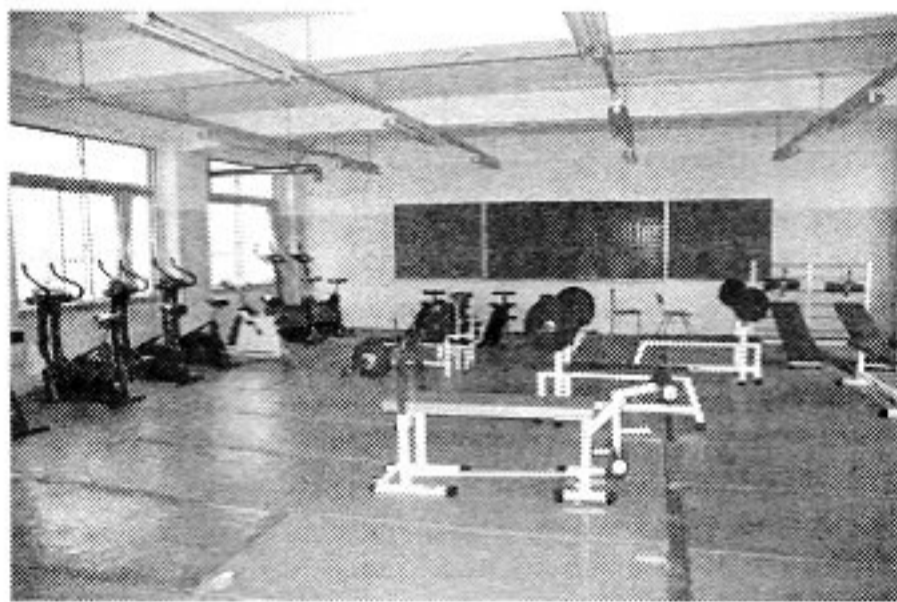
と共に、卒業生相互や在校生
と卒業生との交流を図る為、
様々な学校の卒業生が一堂に
会し、同窓会毎に青春の昔に
返り学校や仲間を愛する気持
ち、地域の人や自然を慈しむ
気持ちが知らず知らずの内に
育まれ、愛校心や学校への誇
りが醸成されるなど、健全な
精神の育成に寄与できると考
えられ開催されました。我が
校も早速同窓会に計り、新た
な世代交流を願い出場する為
の準備を進め、実行委員とし
て久保寺勇(高13回)、越水清
(高14回)、関恒久(高19回)、
ピアノの樋口紘子(高55回)
や教頭先生には特別に御協力
を頂きました。又出場するに
あつては学校の協力で、母校
で練習ができました事を本当
に感謝しています。本年も参
加する予定。多数の皆様の方
加を心から願っています。

80周年記念品紹介

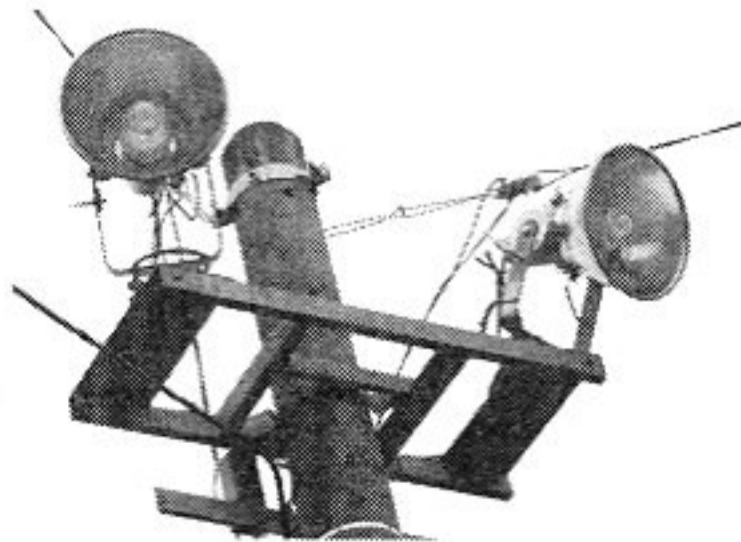
80周年記念実行委員会から、
トレーニングマシン、テニス
コート照明機、楽器3台、投
光器2台が寄贈されました。



目録贈呈

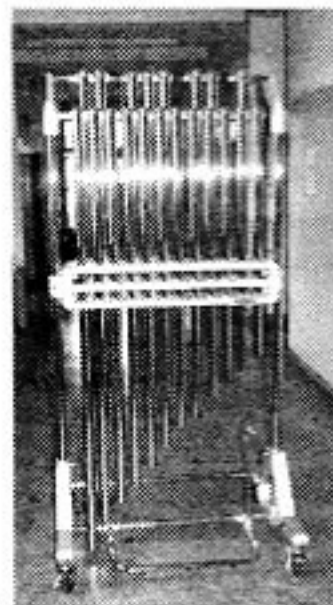


トレーニングマシン

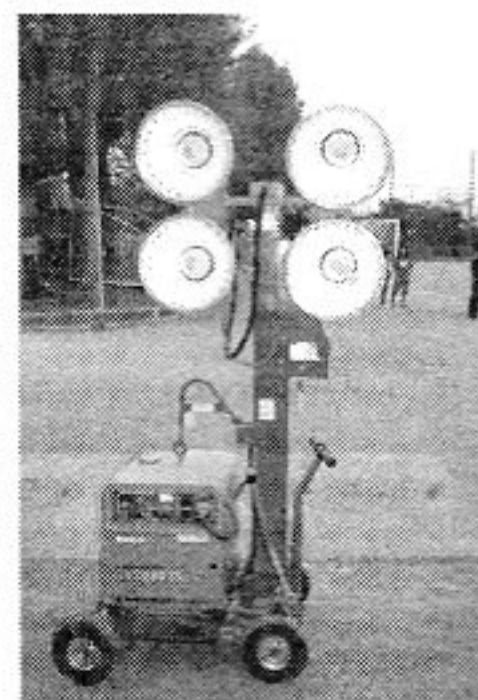


テニスコート照明機

チャイム



グラウンドを照らす
投光器



支部だより

平塚支部

関 恒久 (高19回)

平成18年度は、同窓会総会の開催担当支部として、開催にあたっての準備と、第1回「青春かながわ校歌祭」出演に対する支部会員の対応等のため、5月13日・7月15日・

8月20日の3回役員会を開き、

8月26日の母校同窓会総会・

懇親会を支部会員の御協力の許にホテル・サンライフガーデンで無事に行うことができました。

「青春かながわ校歌祭」につきましましては、実行委員会支部代表者の選任や母校での練習などのため支部応援団員3名に指導者として協力を得るなどして、10月21日の本番に支部会員9名が参加しました。

平塚支部の役員も、近年高齢化が進み、平成18年度も永く支部役員として活躍されました今井忠一氏(中17回)と

高梨忠久氏(中19回)が亡くなられました。また病気等で

役員の辞退等もあり、役員の補充に対しての若返りに努力

しているところですが、支部同窓会員の一層の御協力を賜

りたいと思います。

伊勢原支部

瀬戸洋四郎 (高15回)

我々が最も愛し、心服し頼りにしてきた良きリーダー賀川義光大先輩(高6回)が総会を見届けたかの様に、翌日

この世を去られました。誠に残念であり、無念でなりません。悔やまれます、もっと、

もっと我々を指導して欲しかったです。温厚で優しく、強

力な指導者で昭和50年の支部

結成に奔走され、それ以来支

部育成に深甚なる情熱を注がれ強固な組織を構築されるとともに、長きにわたり支部長

としてその手腕を存分に発揮され、支部の運営、発展に貢

献されました功績は本当に大きいものがあります。ありが

とうございました。(合掌) さて、支部の動きは賀川氏

の後を引き継ぎ新執行部は、私と副支部長に苅籠光男氏(高

16回)、会計に多田俊夫氏(高17回)、事務局長は田中信一(高

18回)でスタートし頑張っています。ご協力の程お願い

いたします。今年も会員のバス旅行を計画しています。奮っ

て参加を！お待ちしております。今年の伊勢原市議会議員選

挙で、我が支部から越水清(高14回)、瀬戸洋四郎(高15回)、

山田幸男(高20回)、前田秀資(高28回)、大山学(高31回)

の5氏が当選され、また大庭豊(高7回)、大川要(高17回)

の2氏が勇退されました。

小田原支部

柏木 勝 (高9回)

支部活性化に向けて初めての会合を持つということ、小田原在住の同窓198名に

稲木支部長自ら手書きの案内を出され、結局昨年の6月24

日に出席されたのは15名であった。当日は柳川一朗同窓会

長にも臨席いただき、お知恵を拝借しながら、先ず組織づ

くりからということで稲木支部長を改めて信任し、数名の

幹事を決めて、今後少なくとも年1回の会を持つという

ことになった。会も円滑に進んだところで当支部出身の同

窓会副会長でもあり、割烹「だるま」のオーナーでもある廣

澤富正氏の機転で、だるま別館で昼食会となり、互いに懇

親の度を深めた。本年度の総会は小田原が当

番ということ、早速1回目の打合会を2月10日に持った。

2回目は3月25日、3回目を5月13日に行い、南足柄支部

の支援をいただきながら着々と準備は進行中である。来る

8月25日の総会には、是非、同窓の皆様のお出かけをお待

ちしています。

茅ヶ崎・藤沢支部

内堀昌治 (高3回)

昨年は8月に平塚支部主催の総会が、ホテルサンライフ

ガーデンで行われ、秦中時代から高50回ぐらまで、今迄

にない幅広い年代の参加があり、同窓相互の交流が活発で、

最後に校歌を歌い仲間を知り合う素晴らしい会となり感激

いたしました。また、創立80周年記念行事

が秦野市文化会館で盛大に行われ、また第1回「青春かながわ校歌祭」への参加、女子

生徒の全国高校女子駅伝出場と、一番忙しい1年だったと思います。これ程の大きな行事が、同窓生に知らされる手段が「広陵」に少し載るだけで、知らずにいた人が沢山いたことは、私にも責任があります。今後、会員への周知を考えていきたいと思っています。

当支部では活性化のため、母校陸上部で活躍され、校歌祭にも、積極的に実行委員を引き受けてくれた久保寺勇氏（高13回）を来期から支部長（高13回）をお願いしました。同窓会の益々の発展のために、新しい考え方で運営され変わっていくものと確信しています。

東京支部

深田源次（中21回）

毎年の当支部だよりと変わらないことになりましたが、東京及びその周辺の千葉、埼玉、千葉、神奈川（横浜、川

崎、相模原市など）各県に住し、あるいは、これからの地域に在勤される旧秦野中学、秦野高校の同窓生の参加、入会を期待しております。通称「在京広畑会」を基盤として、この東京支部を結成してから二十数年になりますが、定期

定額の会費の定めはないものの、隔年に開催する都内等での総会兼懇親会の費用の一部と本部からの支部助成金等で運営しており、母校での特別の行事や在校生の活動（全国大会出場など）に協賛し、感慨を新たにしています。ただし、いずこも同じく役員、幹事（二十数名）や構成員の年層は増しており、同窓会名簿の最新版活用など工夫を要することも考えています。母校80周年行事に各位の協力を戴いたことを謝し、その記念式典が誇らしい立派なものだったことを報告します。

秦野支部

原 由夫（高4回）

母校ビッグイベントに

秦野支部積極的に参加

〈母校創立80周年行事〉

母校創立80周年記念式典が平成18年10月28日秦野市文化会館において盛会裡に開催されましたが、支部、本部からの積極的な参加の呼びかけに、用意されたOB席を埋めての参加でした。式典に続いて現役生徒諸君が演じた弦楽四重奏、ブラスバンド、コーラス、チアリーダーの出来栄は、真に聞き応え、見応えのある立派な技の連続で感動しました。指導された先生、生徒諸君の努力にOBも顔を連ねて「熱い思いで拍手と声援を送るこ

〈連絡先、町田市森野1-39-16 深田法律事務所（042）710-3855〉

とができて良かった！」と感じさせられた一日でした。〈青春かながわ校歌祭〉

第1回の「青春かながわ校歌祭」は県立高校22校が参加し10月21日横浜市の県立青少年センターホールで開催されました。

秦野支部からも二十余名が勇気を奮って参加し、青春の気を蘇らせました。

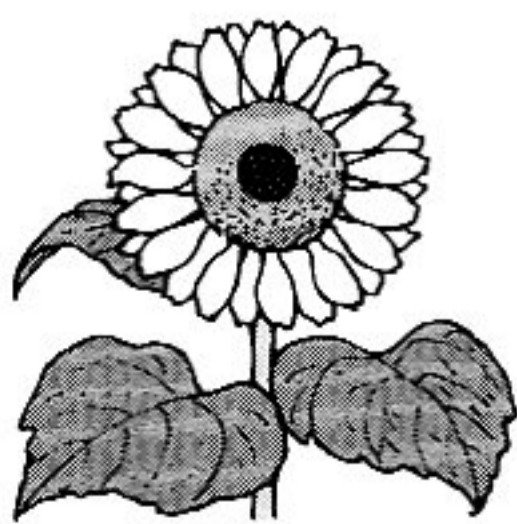
南足柄支部

端山昭夫（中18回）

南足柄支部は、昨年度支部総会、講演会、役員会5回を実施しました。又、同窓会の一支部として同窓会総会、横浜で行われました「青春かながわ校歌祭」、創立80周年記念式典、全国高校女子駅伝大会参加選手の小田原駅での送り迎え等、会員数の少ない支部ですが、同窓会のあらゆる行事に積極的に取り組み参加し

てまいりました。

本年度は6月支部総会を開催いたすと共に、毎年行っています講演会を会員中の1名にお願いし、ビデオを見ながら講演をしていただきます。しかし、若い会員の出席が少ないのが現状で悩みであります。そこで支部役員が自分の近くに居住する会員に声を掛けることにより、支部総会を盛り上げるように努力することにしていきます。又、本年度同窓会総会が小田原市で開催されますので、小田原・南足柄両支部で協力し合い準備を進めております。会員の皆様方が多数ご出席されますことを望んでおります。



空晴れて 広畑が丘 秦中・秦高に想う

恐怖の一瞬

加藤金次（中19前）

私の中学生生活は、戦時・敗戦そして戦後動乱の中、四年間を広畑が丘で過ごしました。今回は種々体験した中で、今でも鮮明に記憶している恐

怖の一瞬の事についてお話しします。

戦況は益々しれつを極め、尋常小学校も国民学校初等科と改称され、第1回卒業生として、希望に燃え秦野中学校に入学しました。その4月18日の出来事ですが、この日は大磯高麗神社の植木祭りでお名でした。この日、黒の学帽からカーキ色の戦闘帽に変わり、雨天体操場でその支給を受けていたその最中、空襲のサイレンが突然鳴り響いたので、警戒警報もなく訓練としてはと、半信半疑でしたが、今、東京が米軍機の空襲を受けているとの話を聞き、速やかに自転車通学の友達数名と帰路につきましたが、何か胸騒ぎがしていました。

校門を出て薬師さんの坂にかかったとき、爆音が近づいてきたことに気が付き、自転車を捨て好奇心と恐いもの見

たさから土堤に駆けよった、その時、東から大きな飛行機が超低空でこちらに向かつて目前数百米のところではつきりと翼と団体に青い丸の中に白い星が目にとまり、敵機であることに気が付き、操縦士の姿が目にとまり、土堤をどう降りたか慌てて身も足も震えが止まらず、この世に生まれて初めて敵機なるものに遭遇し、中学生生活の初めに強烈な刺戟を受けたことは今でも忘れません。

個人的な思い出

一枚の写真から

猪俣貞敏（中19後）

以前、小説『山月記』の作者中島敦の没後五〇年展（神奈川県近代文学館）が開催され、図録に横浜女子高等学校の同僚と自宅の庭で撮った写真が載っていた。背広を脱ぎ中腰の中島の前に腰を落としてい

る先生の顔に見覚えがあった。もしや日本史の青木先生ではと説明をみると、「一九三八年五月左から中島、青木年枝……」とある。懐かしかった。

ちなみに、この時期の中島は「みずからの運命知りつつなほ高く 上らむとする人間よ切なし」と歌っているように、深い人間理解に裏打ちされた独自の小説の世界を模索し続けていた頃であり、先生は中島のよき理解者として、「青木来」と日記に度々登場している。青木先生の温かい眼指しも此所から出ていたのだと得心した。

入学当時の学校は戦時一色だった。そんな中での1年2学期末のある日の放課後、廊下を歩いていると向こうから見えた先生が「やあ、1学期に比べて、全体頑張ってるね」と声をかけて下さった。担任でもない先生が、特別目立つ

た存在でもない一生徒への励ましが諭えようもなくありがたく、現在に至るまで「なほ高く上らむ」という想いの火種となっている。

思えば、厳しい時勢の中で、風格のある、個性的な先生方に接しえられたことは、私にとっては何よりの宝であった。

諸先生方に

感謝の日々

小泉 甫（高9回）

秦野高校を卒業して、はや半世紀。多感な青春時代を過ごした母校の思い出も、断片的でセピア色になりました。

入学式は雨、金持校長先生から「雨降って地固まる」と激励を受ける。建学精神は質実剛健。この精神を体得させられたのは、菩提の造林作業、一万米全校マラソン、そして清貧な時代の勉学環境。最も感銘を受けた授業は、

一番苦手な漢文。池田先生は「これからの日本は工業立国、技術の発展を見据えて将来を期せ」とご教示。この卓越した先見が私の進路を決定。半生を顧みて、如何に的確であったか、今も尊敬し深謝。

岸先生に見せて戴いた、電子ビームを投射した羽根車の回転。論より証拠で、電子技術者志向のトリガーに成る。

反面、化学の授業進捗遅れに、授業ボイコット騒ぎを起こしてしまった不覚。「自分の不勉強を棚上げて、教え方に責任転嫁するとは何事か、就職する友達の立場も弁えよ」と、桐生先生のきついお灸が、確固な人生訓に成る。

熱心に英語嫌いを直して下さった貴田・伊藤先生。文学の情緒や面白さを解いて下さった宮本・小野・栗原先生。数学の伊佐山・横溝・関根・大館先生、社会の宇田川・飯

田先生。日本史の白井先生、授業の合間に「新婚旅行は瀬戸内海が最高!」とご披露。

その10年後、瀬戸内海行きを实践した私達夫婦も、節目の結婚40周年。今改めて、私の礎を育んで下さった秦野高校の諸先生方に、心底から感謝の意を表する次第です。

秦高の

革命的変化

込山弘行 (高29回)

絶対的少数であり、男子クラスや先輩が時々共学クラスを覗きに來たりする。

秦高は、硬派な一面を残しながら、思春期の難しい年頃を過ごす学舎に革命的变化を起こしたようである。

私の3年間の学生生活は、義務教育から解放されたすがすがしさと、活動範囲が広がったことから、校内外の区別なく毎日が楽しくてならなかった。不出来なレザー・クラブトの財布や銅線でこさえたブローチを恩師や同級生に買って頂き、資金を稼ぎ、青春を謳歌した日々は、今思い返してみると赤面の至りで、恩師をはじめ同窓生に、反省の弁を述べたい思いである。

昨日のこのように思い出す高校生活であるが、既に分の子どもらが成人し、当時の自分の年齢を超えている。時の過ぎ行く早さに驚きを隠

せない。同窓生はどのようにお感じか…。

60周年と

80周年

倉田慎一 (高39回)

在校生として60周年を、職員として80周年を経験する機会を得ました。

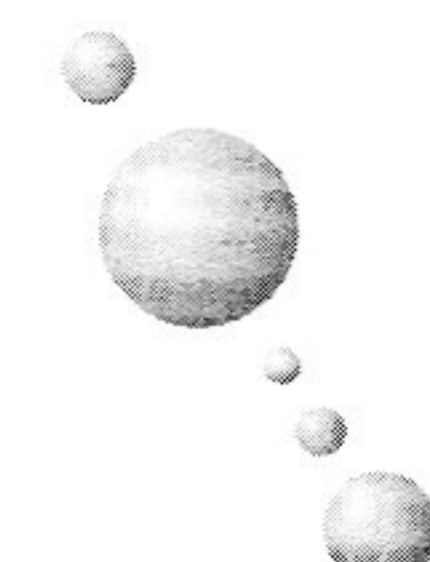
60周年では、草創期より数えて100周年ということもあり、周年事業が大々的に行われました。正門脇の記念碑や前田夕暮の歌碑が立てられ、また『秦野高等学校史』が刊行されました。マラソン大会では全員に湯のみが渡され、文化祭では小林完吾アナウンサーが講演に來られ、年間を通じて記念事業が行われました。

からなかつた作成の労力に感心しました。

秦野高校の歴史の長さを示すものが、理科棟にも残されており、生物室にはいまや作成が不可能と思われるアホウドリの剥製があります。物理室には現在入手不可能な実験道具がいくつも残されています。その一つを調べるために大学資料館や製造メーカーに問い合わせをし、ようやく使い方が分かったことがありました。

ところで、正門前のフレンド相原のおばちゃんに伺ったところ、このお店は40周年といふことでした。創立80周年、草創120周年と創業40周年とめでたいことづくめの年でした。

『学校史』は80周年の準備の際に職員として読みました。が、百年の歴史が細かく調べられており、生徒の時には分



秦中・秦高在職中の想ひ出

在職中の ご支援への御礼

そして誇り高き生徒

能條 剛(前教頭・高17回)

秦野高校を卒業して38年目に母校の教頭として奉職。この春退職するまでの5年間で過ごせたことは最高の喜びでありました。

私がそれなりに仕事ができ、たのも、同窓生の皆様がことあるごとに協力していただいたからです。たとえば、奉職してすぐに、「秦高前」のバス停の屋根の設置について、後輩のOBに相談したところ、適切なアドバイスと神奈中営業所長、県、秦野市の行政担当等のご理解をいただくことができました。本当にこの時

は多くの同窓生の母校に対する愛情を強く感じました。また、従来、同窓会からご援助をいただいております。高校女子駅伝で15年ぶりに県大会で優勝し、全国大会に県代表として出場が決まり、同窓生の多い近隣の市役所等に援助金の依頼をしたところ快くご協力をいただきました。その後、特に陸上、バスケットボール、ソフトテニス、サッカー、弓道等の活躍が素晴らしく、「全国大会派遣支援実行委員会」に、多くの同窓生の皆様からご援助をいただき感謝しております。また、80周年記念等々まだまだ感謝、御礼を申し上げる事柄があります。紙面の関係で割愛させていただきます。

秦高生に感激した素晴らしい思い出も沢山あります。体育祭の途中から雨になり、応援合戦の時にはグラウンドに水溜りができ、誰一人嫌がることなく水溜りに寝そべり、演技を披露した。そこにはずぶ濡れになりながら時間を計測していた先生方もいました。また、80周年記念式典の折、当日高文連の開会式にもかかわらず、引地教育長が来賓で出席下さり、「全県立高校で実施した。『挨拶運動』の原点は秦野高校から生まれたものだ」と話されました。この2つの事柄からも、校風でもある「質実剛健」「文武両道」の秦高の生徒の心の豊かさを強く感じることができた。最後に我が同窓生・後輩たちと絆を深めながら仕事を終えることができたことに心より感謝申し上げます。

『秦野高等学校史』の1つと
近藤儀房(国)
秦高には昭和44年から62年まで18年間お世話になった。年齢でいうと22歳から40歳までである。青春の後期といってもよいこの時期を素晴らし生徒や先生方と過ごせたことは、今なお私の財産である。『秦野高等学校史』という本をご存じだろうか。変型菊判245頁。草創期から昭和60年までの秦野高校の通史を書いたものである。今回はこの本のことについて記しておきたい。

(英)、世羅洋子先生(国)、河村一夫(社)、近藤。表紙絵は平野明先生(美)が担当した。それぞれが資料の探索や整理、関係者からの聞き取り(今になっては大変貴重なものもある)、そして執筆。時間に追われての悪戦苦闘であったが、本が出来た時は嬉しかった。ずっしりした手応え。内容も装丁も良い。自負するものがあった。「この本、ものすごい価値がでるからね」と全校生徒に語った内山先生の言葉が忘れられない。一方で予算を大幅に超過。少しでも売ろうと、市内の書店や飲食店にまで本を置いてもらったことを思い出す。発行から21年が経過。それ以後の秦高の歴史を書き加えた増補版『学校史』が刊行される日はないだろうか。それが私のひそかな願いである。

全国大会等の報告

前教頭 能條 剛(高17回)

今年も同窓生の皆様のご支援を受け、生徒は昨年以上の活躍をしました。

陸上では国体成年女子円盤投げで3位。全日本ジュニア大会5000mでは県高校記録を樹立。駅伝も県大会三連覇、京都の都大路では18位と結果を残しました。

バスケットボール部は2年連続全国大会に出場し、今年は2回戦まで進出。その他、ソフトテニス部、弓道部などが全国大会に出場し健闘しました。

サッカー部は全国高校選手権県大会で桐光学園と対戦し、延長終了間際で得点を許し惜敗しました。しかし全日本U-17に選ばれる選手が出るなど、80周年記念にふさわしい大活躍の年でした。

お願い

同窓生の皆様には昨年同様のご支援をよろしくお願い申し上げます。今回も派遣援助金振込用紙を同封させていただきました。元PTA会長

平成18年度秦野高校全国大会等派遣実行委員会会計報告

平成18年2月1日

項目	金額	備考
前年度繰越金	178,977	
振込援助金	726,070	個人118名、団体2
現金援助金	45,000	個人5名
貯金利息	11	
合計	950,058	

項目	金額	備考
活動経費	81,969	横断幕、印刷、振込用紙、封筒、切手等
陸上部短距離	20,000	全国総体、国体、全国ジュニア
陸上部長距離	300,000	全国総体、国体、全国ジュニア、全国駅伝
男子バスケットボール部	280,000	全国総体
女子ソフトテニス部	160,000	全国総体
弓道部	30,000	全国総体
サッカー部	10,000	U17国際ユース
合計	881,969	

《収入》950,058 - 《支出》881,969 = 《次年度繰越金》68,089

平成18年度 部活動大会結果報告

部活動名	大会名	結果	部活動名	大会名	結果	
陸上競技部	県高校総体	男子1500m 6位	弓道部	関東大会県予選	(個人) 4位 関東大会出場	
		男子5000mW 1位		県高校総体	(個人) 6位 女子(団体) 4位 男子(団体) 8位	
		女子3000m 1位 3位 6位		関東個人選抜県予選	男子3位 関東選抜大会出場	
	女子円盤投げ優勝	県新人大会		5位		
	女子砲丸投げ5位	全国選抜県予選		男子(団体) 優勝 (個人) 3位 全国選抜大会出場		
	女子やり投げ7種競技3位	関東大会県予選		優勝 関東大会出場		
	関東大会	女子3000m 2位		第10回国際ユース サッカーin新潟	U-17日本代表	
	日本ジュニア陸上大会	円盤投げ2位		三県省道青少年交流事業	県代表	
	県選手権大会	砲丸投げ3位		全国高校サッカー県大会	準優勝	
	国民体育大会	インターハイ出場		関東プリンスリーグ参入 決定戦	2位	
ソフトテニス部 (男子)	県新人大会	女子800m 1位4位5位7位	サッカー部	全国高校サッカー県大会	準優勝	
		女子3000m 3位 5位 7位		関東大会県予選	準優勝 関東大会出場	
	女子5000m 4位	ウインターカップ県予選		3位		
	円盤投げ出場	U-16関東トレセンリーグ		県代表		
	県新人大会	女子800m 8位		バスケット部 (男子)	関東大会県予選	準優勝 関東大会出場
	県女子高校駅伝競技大会	女子1500m 2位			県高校総体	準優勝 インターハイ出場(2回戦)
	東日本女子駅伝大会	女子3000m 2位 3位			ウインターカップ県予選	3位
	都道府県対抗女子駅伝	走り幅跳び 7位		水泳部	県高校総体	100m自由形 5位 50m自由形 8位 関東大会出場
	横浜国際女子駅伝	女子優勝 関東大会優勝 全国高校駅伝18位			柔道部	県新人体育別柔道大会
	ソフトテニス部 (男子)	県選手権大会		5位	かるた部	県大会
県新人大会	(個人) 3位	演劇部	県高校演劇発表会	優秀賞		
ソフトテニス部 (女子)	関東大会県予選	(個人)5位 (団体)3位 関東大会出場	演劇部	県高校演劇発表会	優秀賞	
	県高校総体	(個人)3位 インターハイ出場(2回戦)				
	国民体育大会県予選	5位				
	県選手権大会	準優勝 5位				
	県新人大会	(個人)5位 (団体)5位				

同期会だより

元気旺盛 喜寿を迎えた同期会

小澤昭次(中19回)

平成18年は旧中19回生が喜寿を迎えた年だ。加えて母校創立80周年で、まさに重慶の佳き年となった。当年の同期会は、11月20日、平塚のレストラン大原で元気旺盛な仲間30人が集まり、盛会裡に終わった。

当期生の同期会は、毎年4地区の輪番担当だ。本年は平塚地区が当番で、地区在住の加藤金次君と馬鳥巧君が、呼び掛け幹事8人だ。当日は夜来の強風雨が治まり、天気晴朗の秋晴れとなったが、交通は大混乱だった。遠来の大津君、澤君、内田君、伊藤(康)君、下澤(与)君、安池君等

の面々も遙々と来た。小田原・秦野・伊勢原の仲間も来た。健康不安や、あり得ざるわだかまりを棄て集まった。開会挨拶や母校の近況報告等で始まった。物故された恩師旧友等に、心からなる黙祷を捧げた。

四偶に微笑の故友の姿が浮んだ。乾杯後は自己紹介、学校時代の思い出、旧友の消息等が語られた。談笑爆笑の渦が湧き、青春時代に戻っていた。友あり遠方より来た。また楽しからずや。久闊を叙した。花鳥風光を賞で山海の珍味を味わい、銘酒を酌み再会を飲み健康を祝した。談論風発止まるを知らず。物故する仲間や体調不良の便りも増えて、寂しい思いをするこの頃でもある。

幹事発議で校歌広畑が丘を全員唱和した。熱い思いが再び押し寄せた。静寂が来た。

半世紀ぶりの

再会

福田三郎(高13回)

昭和36年3月卒業の我ら同期生は、本年2月、秦野駅前「一の家」で2回目16年ぶりの同窓会を開いた。恩師の渋谷先生、鈴木先生、小島先生(岸先生ご欠席)のお三方を囲み、六十路の仲間が大いに盛り上がった。卒業してから46年の歳月を経ての再会の面々もあり、感動もひとしお。

卒業後半世紀を経し破顔

同窓会に輝く面々

今度の会のきっかけは、秦高創立80周年記念同窓会への出席と、昨秋横浜開催「青春かながわ校歌祭」に出演した同期3人の意気投合である。各クラスごとの幹事役を募り、数回の幹事会をもって実現した。200名近い名簿作

りから案内状、予算、店との交渉、会の運営等々……たかが同窓会、されど同窓会だ。それにしても、青春時代の顔を合わせての本番も二次会も幹事会もなんと楽しかったこと。

16年ぶりの再会笑みあふれ六十路の集い熱気帯びゆ

物故者十余名に黙祷を捧げた会場に、正真正銘の一斗樽鏡開きで芳香が漂う。感謝。

祝い酒鏡開けばかぐわしく樽の底まで澄みて薫りぬ

次回は2、3年後に、貴方の幹事で再会できるように。

同窓会事務局 からのお知らせ

同窓会本部では、同期会を開催する際、祝金1万円を贈呈します。次の役員が窓口にな

なっています。

●秦野市ひばりヶ丘5-23

榎本圭治 事務局

(0463)7382

●伊勢原市桜台1-15-14

喜多 実 副会長

(0463)1091

●平塚市四之宮3-11-13

松永幸夫 副会長

(0463)4792

同期会への祝金

平成18年度贈呈同期会6団体

中18回 平井清治(代表)

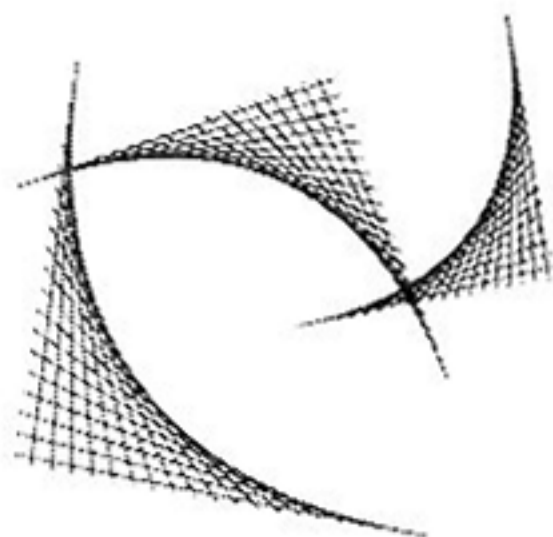
中19回 野川義雄(代表)

高2回 与野主計(代表)

高3回 喜多 実(代表)

高13回 福田三郎(代表)

高55回 新井孝弘(代表)



物故者

慎んでお悔やみ申し上げます。

【客員】

金見 三好

野川 元睦

高橋 俊三

松岡 正

笠尾 五郎

吉木 勲登

石黒 博

【会員】

中1山梨三男造

中2新倉 同

中2田中義弘

中3飯田寛一

中3大森 茂

中3鳥村梅雄

中3土屋和夫

中3牧島芳男

中3三竹範義

中3神崎忠雄

中4相原誠一

中4秋山忠雄

中4大森伊三郎

中4志村茂雄

中4菅谷秀雄

中4田中高治

中4都築宗助

中5草柳晴夫

中5高田一雄

中5坪井 清

中5日比野俊夫

中5諸星典夫

中5大館淳一

中5浜田 淳

中6加藤菊雄

中6日吉寅吉

中7相原良三

中7安藤清義

中7飯沼寿夫

中7木村収治

中7内藤丈男

中7山本温也

中7福井芳雄

中8金子和夫

中8加藤晃一

中8渡辺善太郎

中9市川桐雄

中9佐久間貞雄

中9山口家郷

中11遠藤 登

中11小川一良

中11桐生 雄

中11船越成文

中11古屋 弘

中12相原豊治

中12込山恒明

中12田中 勝

中13夏苺正雄

中13村澤與四郎

中13村山富之助

中13和田 功

中14今野 弘

中14金目和男

中14平田成方

中14古瀬 勲

中14矢野武雄

中14瀬戸 巖

中15石田有徳

中15梅本玄正

中15辻村 貢

中15露木正治

中15長谷川文雄

中15今井 功

中16清水朋介

中16清水三之助

中16二宮敏朗

中17飯田 宏

中17今井忠一

中17柿沼孝道

中17川崎正美

中17小林 博

中17古宮次郎

中17陶山辰雄

中17長嶋英二

中17内藤政雄

中17水島和三

中17矢島昭治

中17吉田行雄

中17小沢正己

中18大館誠至

中18尾上三男

中18加藤英男

中18加藤正義

中18杉山準一

中18永井敬二郎

中18日渡幸雄

中18高橋重雄

中19眞壁操吉郎

中19大山 昭

中19坂田 茂

中19高梨忠久

中20猪股直恵

中20内田信夫

中20高部富士男

中20露木 学

中20高橋政二

中20牧田 明

中20栗原幸男

中20堤 保

中21座間 章

中21山口恭平

中21宇山 勲

中21田中良彦

中21原 誠治

併1石上 束

高1大宮博司

高2小野大洋

高2根岸 正

高3尾澤誠一郎

高3柏木雪次郎

高3鈴野文男

高4大津一男

高4柏木将一

高4鍋田 杲

高4普川 孝

高4今井 敏

高5石井公彦

高5石黒一兵

高5岩本公夫

高5内田仁志

高5小沢英雄

高5草山清隆

高5斎藤 寿

高5鈴木政幸

高5中丸 昭

高5原 卓夫

高5山口郁男

高6青木 茂

高6芦川 正

高6綾部 隆

高6貴田節夫

高6杉山永治

高6関口 勇

高6先崎好明

高6曾根満雄

高7池田正二

高7石黒加兵

高7小清水テ子

高7藤間照男

高7新倉 茂

高7西野 衛

高8平野久次郎

高8遠藤 茂

高8星崎孝夫

高8田中辰男

高8橋井 稔

高8東島光明

高8諸星照男

高8西山恭二

高9椎野 稔

高9柳川隆治

高9府川和雄

高10青木 清

高11桐山隆昭

高11高橋道雄

高11谷 敬夫

高12熊沢志郎

高12山口弘治

高12松川武夫

高14梅原 興

高14大谷庄一

高14佐藤 進

高14高田 泉

高14野島政勝

高14山本昌孝

高15井口秀穂

高15関野宗徳

高16小林一好

高16野口一義

高17藤田淑夫

高18相原一夫

高18石井惇好

高18染谷 尊

高18中塚孝一

高19井上賢二

高19尾崎一吉

高19古宮照夫

高19坂口康夫

高19高津 実

高19原 博明

高19保田秀雄

高19富塚義雄

高19涌井昇呉

高20石井春男

高21高橋功治

高21寺田 博

高21山口和義

高22田代和久

高22内藤正行

高23鈴木文明

高23高崎 潔

高23中村哲郎

高23船木 肇

高23千葉恭一

高24高橋康郎

高24西田勝美

高25宮本 浩

高26牧田正志

高26三武昌彦

高27前田明久

高27山本隆男

高28杉山重和

高29門倉久男

高30遠藤充広

高30西山慎次

高31岡田直久

高32山田義明

高34佐藤文彦

高34古谷幸男

高34松本 勲

高35芦川幸夫

高36中西信雄

高38池田正志

高38藤原秀雄

高39田中健一

高41石川慎也

高43坪井 恵

高47山田和宏

高49小泉隼人

*同窓会では、今年度、本会名簿の編集・発行をいたしました。名簿の発行に先立ち、会員の皆様や関係者から多くの情報をお寄せいただきました。誌上にて感謝申し上げます。上記の物故された方々は、その資料を基にご報告申し上げます。ここに謹んで、皆様の冥福をお祈り申し上げます。

寸描 母校2006年度

進学カルテ

—国公立大学合格者の増加—

進路指導支援グループ 原 救夫

平成18年度卒業生355名の進路状況を報告いたします。

4年制大学進学者77・5%、短期大学進学者5・4%、就職者0・3%進学準備等(浪人等)11・5%。以上が平成18年度卒業生の進路内訳です。

具体的な大学・短大等への合格状況はP17表をご覧ください。

59期生は1年次からキャリア教育を実施した最初の学年で、その成果が問われるところでしたが、国公立大学の現役合格者数を数年ぶりに30の大台に乗せることができました(平成17年度12名↓平成18年度33名)。また、進学準備等の減少(平成17年度61名↓平成18年度41名)、4年制大学進学者の増加(平成17年度251名↓平成18年度275名)の傾向が見られました。

これは、部活動、学校行事等それぞれの場面で全力投球す

る生徒たちが、粘り強さ・集中力を勉強・受験に生かした結果と思われまます。

大学入試についての全般的な傾向を見ますと、今後大

学・学部が更に進み、入試についても多様化が加速

し、その影響から、国公立大学では後期入試の廃止等の流れも生じています。個々の大学の個性がより明確になり、早期から目的意識を持ち、自ら立てた将来設計に向かって地道に努力する姿勢が求められています。

本校では、受験の準備として、平成19年度入学生から、特別選択クラスの設置や、7限の補填授業等を実施し、1年次から学力向上のための指導体制を新たに切り入れることと致しました。従来通りの本校を会場とした予備校の模擬試験の実施や、1年生から3年生の全生徒が全国レベル

の模擬試験を受験することで、大学受験に対する意識付けを回り、生徒個々のより精細なデータ作りを行い、進路ガイダンスに生かすことも引き続き、充実させて参りたいと思っております。

今年度もPTAと協力し1年生対象の『プロフェッショナル列伝』(職業人講話)、2年生対象の『大学学部学科研究』を開催する予定です。私

たちは、進路教育事業などを通して、すべての生徒が夢を持ち、それを実現できるように、また、『ただ何となく〇〇大学に入りたい』という生徒をなくし、明確な目的意識を持って志望校を決定し、受験に臨む生徒が多くなるように支援していきたく思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

2006年度卒業生の進路状況

受験先	受験者	合格者	入学者内訳			
			一般入試	指定推薦	公募推薦	AO入試
国立大学・文系	21	6	4		2	
国立大学・理系	26	11	7		1	
公立大学・文系	24	15	13		2	
公立大学・理系	3	1				1
私立大学・文系	737	317	85	41	7	12
私立大学・理系	605	305	55	30	12	3
大学小計	1,416	655	164	71	24	16
国公立短大	2	1	1			
私立短大	37	35	2	7	9	
短大小計	39	36	3	7	9	
大学校						
海外の大学						
専修・各種学校	19	19	6	1	12	
就職	1	1				

2006年度 主な大学・短大合格者延べ数

大学名	現	卒	大学名	現	卒	大学名	現	卒
国立大学(4年)			北里大	17	4	東洋大	7	1
茨城大	2		杏林大	7		東洋英和女学大	5	
神奈川県立福祉大	5		国立音大	4		日本大	15	5
鹿屋体育大	1		慶應義塾大	1	7	日本女子大	5	2
京都市立芸術大	1		健康科学大	4	1	文化女子大	4	
静岡大	2		工學院大	8	2	法政大	35	3
首都大	4		国学院大	2	6	星薬科大	2	
高崎経済大		1	国際医療福祉大	7	1	武蔵工大	29	4
筑波大	2	2	国士舘大	2	2	明治大	27	10
電気通信大	1		駒澤大	7	1	明治学院大	16	4
東京海洋大	1		相模女子大	6		明星大	12	2
東京学芸大	1		芝浦工大	5	2	立教大	9	3
東京農工大	2		上智大	7	1	早稲田大	9	9
兵庫県立大	1		昭和女大	4		短期大学(公・私)		
福島大	1		昭和薬科大	4	2	青山学院女子短	6	
山口大	1		昭和薬科大	3		大月短		1
横浜市立大	5		成城大	4	4	神奈川外語短	1	
横浜国立大	2	1	専修大	24	3	共立女子短	1	
琉球大	1	1	玉川大	20	1	実践女子短	1	
私立大学(4年)			多摩美大	3	2	湘北短	2	
青山学院大	21	5	中央大	32	7	女子栄養大短	2	
麻布大	4		津田塾大	2		東海大医技短	4	
桜美林大	12		帝京大	9	3	東京農大短大部	4	
大妻女子大	5		帝京平成大	4		立教女学院短	1	
学習院大	3	1	東海大	24	1	国公立大学		
神奈川大	45	6	東京電機大	8		私立大学		
神奈川工科大	14		東京農業大	27	2	短期大学		
鎌倉女子大	6		東京薬科大	4		合計		
関東学院大	4	1	東京理科大	11	4	33	5	
			東邦大	4		622	132	
						36	1	
						691	138	

「会員名簿」について

80周年記念事業の一つとして、「会員名簿」を発行しました。前回同様に(株)サラトにお願いし、1年ほど前から準備をしてきました。恩師を含め、会員数23850名を収録してあります。予約された以外で、購入ご希望の方は、秦野高校同窓会「会員名簿担当」までお申し出ください。価格は4500円(送料含む)です。なお、名簿については、悪用されることもあり、その取り扱いについて十分注意してください。

より正確な情報を会員相互に提供していくため、住所変更・改姓・死亡等の場合、必ず事務局へご連絡ください。

原稿を

お寄せください

同期会、クラス会だよりなどの原稿を700字以内でお

寄せください。または、個人の近況など、短くても結構です。

送付先 秦野高等学校同窓会 担当

叙 勲

おめでとございます。

(敬称略・順不同)

旭日双光章

原 米司(高4回)

(元秦野市議会議員)

瑞宝双光章

水島 敏夫(中18回)

(元公立中学校長)

春の異動

次の先生方が4月の異動で転退職されました。長い間、本校の教育にご尽力下さりありがとうございました。ごさいました。

(敬称略・順不同)

能條 剛(退職)

塩田 博(退職)

小泉 秋司(退職)

羽生 晴男(上永谷)

瀬戸美和子(大秦野)

新津 俊哉(新磯)

中西 行男(向の丘工業)

林田 和仁(寒川)

藤原 信之(七里が浜)

伊東 慶子(鶴見総合)

倉田 慎一(教育センター)

武藤 妙子(厚木商業)

お願い

終身会費の納入

同窓会の主なる運営費は終身会費で賄っています。現在、在校生は卒業時に納入していただいております。

この制度は、平成5年から実施させていただいており、それ以前に卒業された方で未納の方へは、「振込用紙」を同封させていただきます。何卒、ご協力のほどお願い申し上げます。

秦野高等学校同窓会

会長 柳川 一朗

表紙スケッチ

「学校への道」松田方面

横溝英一(中20回)

早晩に起きて自転車で駅に向かい、御殿場線と小田急線を乗り継ぎ、30分以上歩いてやっと校門をくぐる。

かつての、この方面の通学生は、雨の日も雪の日も、これが日常だった。

寝坊のできた地元の生徒と比べて、その厳しさは比較にならなかつたと思う。

訂正とお詫び

(「物故者」欄削除)

山口幹雄(高44回)(第32号)

山口武男(高18回)(第35号)

林 晋(高39回)(第35号)

編集後記

●本号では、昨年の80周年記念行事や「青春かながわ校歌祭」を特集しました。改めて母校の底力を実感しました。在校生、卒業生からの終身会費の納入、「広陵」への寄稿等、会員の皆様のご協力により良

い会誌をめざします。

●編集委員の古部さんが、昨年7月に病に倒れ、現在療養中です。1日も早い回復と復帰を待っています。

●同じく小泉さんが今年3月高校教員を退職。長い間、お疲れ様でした。(青木)

秦野高等学校同窓会

会報委員会

発行責任者

柳川 一朗(高1)

須山 孝(中20)

榎本圭治(高2)

永山孔昭(高6)

青木利之(高4)

古部三郎(高7)

小泉広澄(高17)

前田秀資(高28)

〒257-1000 秦野市下大槻二二三番地 県立秦野高等学校内

電話(〇四六三)七七一―四三二 振替口座 0012008122689